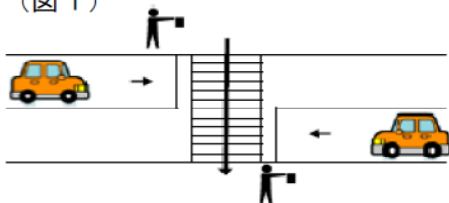


皆様の今後の指導の参考に、「登下校時の誘導の手引き」を記載いたします。

児童と皆様の安全のため、ご一読ください。

立つ位置は、道路環境によって異なりますが、(図1)の示すところがよいでしょう。看板や電柱の陰は避け自動車からよく見える位置に立ちましょう。ただし、道路には出ません。

(図1)



1. 横断旗の使い方

① 児童を待たせる時は旗を地面に水平に持ち、児童が飛び出したりしないようにします。(図2)また、歩道のギリギリのところまで待っていたら「ちょっと下がってね。」と声をかけてください。

② 児童が集まったら、左右の安全を確認して旗は突然出さず、一度大きく右45度の頭上に上げ、運転手に合図をします。

(図3)同時に左手は、手の平を児童に向けて飛び出さないようにふせぎます。この時、無理に自動車を止めるのは危険です。

③ 自動車が完全に止まったら、左右の安全をもう一度確認した後、旗を横断歩道に水平に出し、児童を誘導します。(図4)

この時、止まっている自動車の脇を通り抜けてくるバイクや自転車にも注意しましょう。

④ 児童が向かい側の歩道に渡り切ったのを確認したら、左手で横断歩道をふさぎ、あとからくる児童をとめます。そして(図2)と同じように、旗を一度頭上に上げてから戻します。

旗を一度上げてから戻すなど動作を二回に分けると運転手にわかりやすく効果的です。

⑤ 最後に運転手さんに対してお辞儀をして協力に感謝しましょう。マナーと思いやりと感謝の気持ちを子どもたちが学ぶよい機会となります。

(図2)



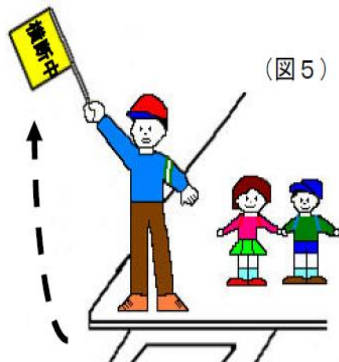
(図3)



(図4)

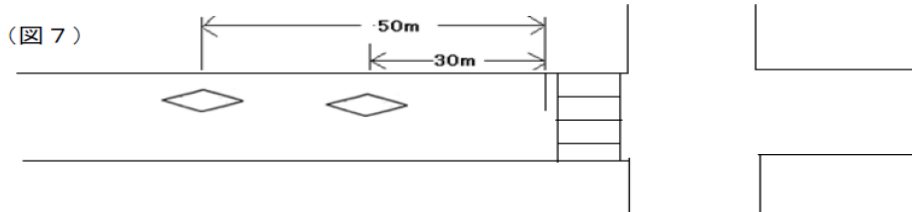


(図5)



2. 横断旗を出すタイミング

自動車の切れ目をとらえ、安全に停止するために十分な距離があることを確認します。自動車が停止するには時速 40 km で 22m、時速 60 km で 44mの距離が必要といわれています。あらかじめ目標距離（目標物）を決めておくとい良いでしょう。ちなみに、横断歩道手前のひし形予告表示の間隔は横断歩道から近い側が 30m、遠い側が 50mに標示されています。（図 7）



3. 注意すること

(1) あわてず、大きく、はっきりと

児童が横断中に自動車が並んでしまったり、児童の横断をとめているときに児童がたまってしまっても、あわてずに行動しましょう。児童の安全が第一です。あいまいな動作は、かえって危険です。動作は、わかりやすく、大きく、すばやく行いましょう。

(2) 自分の身を守る

車道には出ないことが原則です。やむを得ず出る場合は、止まっている自動車の脇を通り抜けてくるバイク、自転車に十分注意しましょう。

また、目立つ色の服装や、反射材を利用し、靴は動きやすいものがよいでしょう。

雨の時は、傘は透明のものを使うとより良いです。

(3) 自動車に指示をしない

横断旗には自動車をとめる強制力はありません。また、運転手に発進の指示をすることもやめましょう。

(4) 信号に従う

信号のある横断歩道では信号に従ってください。

青の点滅信号で児童を横断させてはいけません。児童が横断し終わったら、速やかに旗を元にもどします。

(5) 大型車は止めない

大型車を止めてしまうと、後ろの車の運転手が前方を確認できずに衝突したり、横断中の児童に気付かずに大型車を追い越して事故につながる可能性がありますので、大型車を止めることは避けましょう。